

河川

奄美大島、徳之島には山地が広がり、河川が発達します。奄美大島は、琉球列島には珍しく流程が10kmを超える規模の川が複数あります。

一方、隆起サンゴ礁の島である喜界島、沖永良部島、与論島は、水が浸透しやすい石灰岩に覆われ、雨水はほとんど地下へと流れ込むため、大きな川は形成されません。これらの島々では、水を確保するため、ため池、地下水が利用されてきました。集落の多くは湧水や暗川（地下に河川がある洞穴、クラゴウ）の近くに形成されてきた歴史があります。

奄美群島の河川の特徴と上水利用状況

奄美大島・徳之島	標高差のある奄美大島、徳之島では明瞭な河川が発達しています。河川の一部には発電用や農業用（かんがい用）、上水道用のダムが建設されています。	[水道水] 表流水（河川水）、ダム水、地下水
喜界島	大きな河川はなく、湧水や湧水池が多数あります。喜界地下ダムが建設されたことで農業用水が安定供給されるようになり、高収益の園芸作物などの栽培が可能になりました。	[水道水] 地下水、湧水
沖永良部島	地表水は少なく、河川は二級河川の余多川、奥川、石橋川の3河川のみです。暗川や湧水が多数あり、知名町にある暗川（クラゴウ）のジッキョヌホーは「平成の名水百選」に選定され、地域のシンボルとなっています。	[水道水] 地下水
与論島	大きな河川はなく、湧水や地下水の利用が多数です。地下水の「屋川（ヤゴウ）」は昭和45（1970）年ころまで利用されていました。	[水道水] 地下水

流域

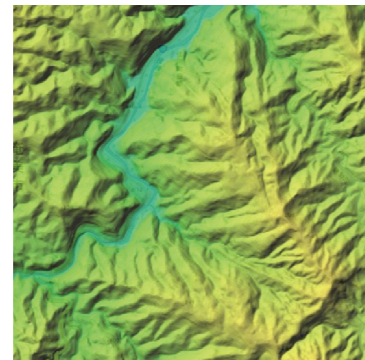
流域とは、降った雨が地表を流れて一本の川に流れ込む範囲のことで、集水域と呼ばれることもあります。流域の境目のことを分水界と言い、山間部では尾根が分水界になるため分水嶺とも呼ばれます。

流域は、人が決めた行政区とは異なり、自然の地形の法則性に沿った区分です。水循環や、洪水や渇水、土砂崩れなどの自然災害は行政区単位ではなく、流域単位で発生するほか、生きものの生息環境をとらえるうえでも流域が単位として有効です。

ここでは、国土地理院が提供する5m間隔の「数値標高モデル(DEM)」※から、地表面を水が流れる方向や累積流量をコンピューター上で計算し、流域界を作成しました。奄美大島や徳之島などは起伏があって流域の算出が可能でしたが、喜界島、沖永良部島、与論島は起伏が少なく、川がほとんどないため、流域の算出ができていません。また、小さな河川や、人工的に作られた水路についても、流域が算出できていない場合があります。

※数値標高モデル(DEM)

地表面を等間隔の正方形に区切り、それぞれの正方形の中心点の標高値を記録したデータ。航空レーザ測量により作成される。計算には10mメッシュのDEMを用いた。



数値標高モデル(DEM)から作成された地形の起伏をあらわす図(色別標高図)

- 凡例
- 湖沼
  - 河川(2級河川区間)
  - それ以外の河川
  - 標高\*から算出した流域



索引図

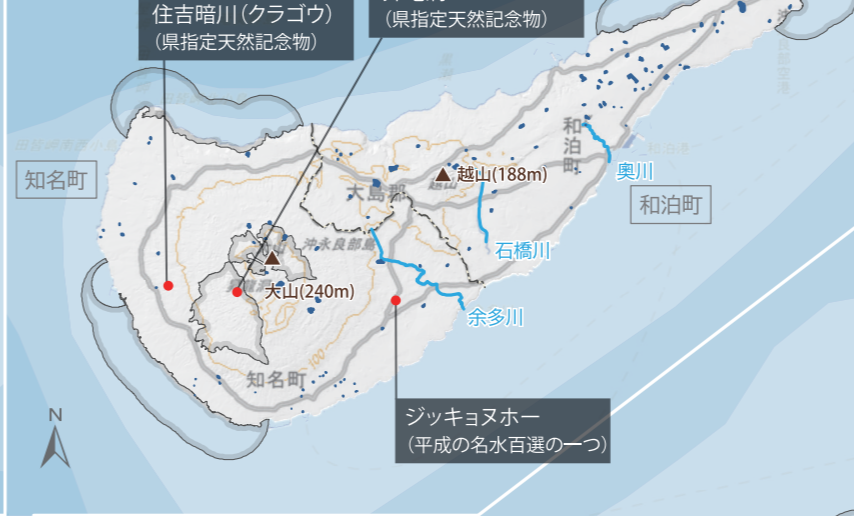
[出典] ・2級河川 「国土数値情報(河川データ)」(国土交通省) (https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-G02-v3\_0.html)  
 ・その他河川 「基盤地図情報(基本項目)」(国土交通省) (https://fgd.gsi.go.jp/download/mapGis.php)  
 ・流域界 基盤地図情報数値標高モデル 10mメッシュ(標高)より作成  
 ・市町村界 「国土数値情報(行政区画データ)」(国土交通省) (https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3\_1.html#prefecture46)  
 ・陰影 基盤地図情報数値標高モデル 10mメッシュ(標高)より作成  
 ・背景図 地理院タイル(淡色地図、色別標高図)

与論島



屋川(与論島)

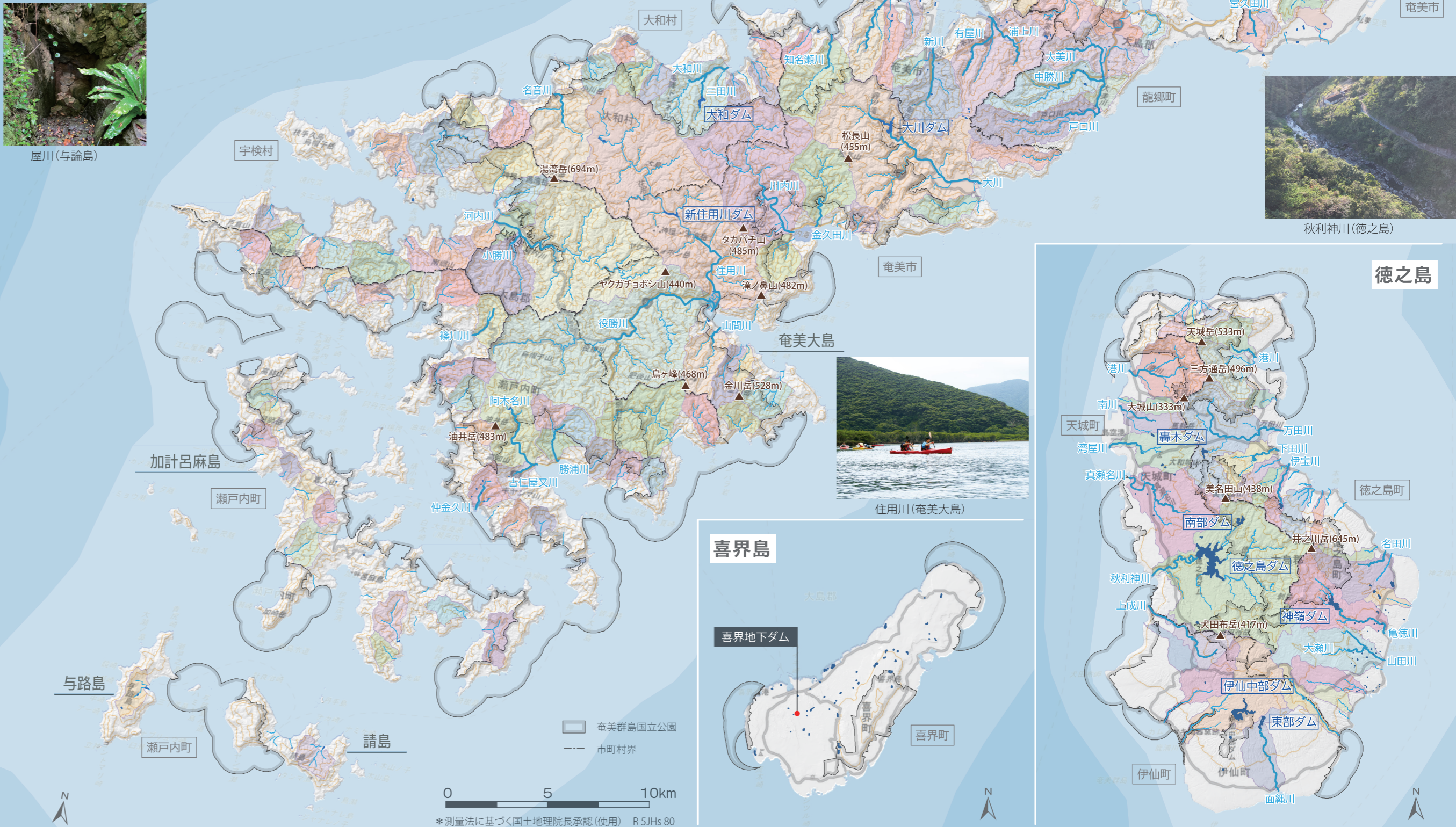
沖永良部島



ジッキョヌホー(沖永良部島)

住吉暗川(沖永良部島)

奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島



秋利神川(徳之島)

徳之島

喜界島



喜界地下ダム